

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2990500106		
法人名	社会福祉法人 協同福祉会		
事業所名	あすならホーム畷傍グループホーム		
所在地	奈良県橿原市大久保町287-1		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991600020-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991600020-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi</a>
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成30年 3月 2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>地域の方との交流の機会を多く持つように努めている。</p> <p>利用者さんの持っている力を活かすことができるような環境は整っている。</p>
----------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>近鉄畷傍駅から徒歩5分の便利などところにある。事業所は木造2階建ての建物で、1階部分に小規模多機能ホームとサロンスペースがあり、2階に2ユニットのグループホームがある。床は、畳や木でできており、全体に和風な作りになっている。法人の「10の基本ケア」をもとに、利用者の希望や目標に沿って介護計画が立てられて、個別の外出支援に力を入れている事業所である。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人開催の全体会議を通して、理念の共有を行っている。 各事業所での実践。	法人の「10の基本ケア」について職員は法人の研修で学習し、現場でそれを実現できるように取り組んでいる。	法人の理念だけでなく、職員で話し合っ事業所独自の年度目標などがあればさらに良いと思われる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日10時半、サロンで実施している体操に地域の方・利用者さん参加されている	自治会に加入し、地域の老人会の会合に職員が参加することがある。小学校で開催される認知症サポーター養成講座に事業所責任者が参加している。地域のボランティア組織が、事業所1階で月6回サロンを行い交流している。まだ開所して1年7ヶ月であるが、特に地域との交流に力を入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回の地域学習会の開催。 日々の体操や地域サロンでの実践の報告。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席された地域の方や家族さんからの意見を各部門の朝礼で周知・実践を行っている。	運営推進会議は、市の担当職員か地域包括支援センター職員、自治会長、老人会会長、家族などが参加し、2ヶ月に1回開催している。家族からは、利用者の入居後の変化の様子などが話され、事業所の理解を深めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の介護相談員さんが訪問に来て下さる。 フロアの雰囲気等を見てもらい、情報交換を行っている。	月1回、市の介護相談員を受け入れ、協力しながらサービスの向上に取り組んでいる。生活保護の利用者を受け入れ、市の担当課と連携して支援している。市と協力して月6回、サロンを開催している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人開催の全体会議を通して、学習を行っている。	法人での研修で身体拘束をしないケアについて学習し、それを日々実践している。玄関は昼間施錠せず、地域や警察の協力を得ながら見守りをしている。居室も利用者自身がカギの管理を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人開催の全体会議を通して、学習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使っている方がおられない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明には時間をかけて理解してもらえるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議に地域の方や家族さんに参加して頂き、情報の交換を行っている。	家族の面会者が月100名ほどと非常に多く、その都度職員は情報交換している。運営推進会議に家族が参加し、思いを述べている。また、ケア会議にも家族が参加して、要望等を職員に伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人全体の会議のレポートや毎日の部門の朝礼で職員からの意見を聞く機会にしている。	毎日、朝礼で職員は気が付いたことを管理者に伝えている。正職員は、半年に1回、個別に面談が行われ、意見を述べる機会になっている。毎月法人全体の研修があり、管理者はレポートを集め、職員の意見の把握に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の安全衛生委員会で、各所属のスタッフの働き方の振り返り等を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後に法人で開催されている講座に参加して頂き、当法人の理念等を学んで頂く。採用指導マニュアルを活用した指導の実践。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院主催の研修会への参加を通して、他法人の方との交流の機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談の機会を持ち、本人さんと顔を合わせる機会を持つようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に家族さんの困っていること等を聞かせてもらう機会を作っている。も面会時にも話をする機会を作り、普段の様子等を伝えるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で一方的に断ることはせず、別のサービスについても説明と提案をさせてもらうよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や配膳・下膳などの利用者さんと共に実施している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会回数の制限はせず、来てもらえる限りは来てもらっています。その際、職員は家族さんとお話をさせてもらうように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も行きつけの美容室に通えるよう支援している。 昔からの友人の方に面会にも来ていただいている。	利用開始時にアセスメントを行なって、利用者の馴染みの美容室や行きつけの場所などを聴いている。家族だけでなく、友人や知人の面会がある。お盆や年末年始に家に帰ることができるよう支援している。携帯電話を利用して家族と連絡を取り合っている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席の配置の工夫。 一緒に外出をすることで関係ができていくような工夫に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も運営推進会議等への参加をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の朝礼での事例検討・定期的なケア会議の開催。	利用開始前に、家庭訪問を行い、アセスメント用紙に身体面だけでなく生活歴や趣味、特技など記録し、事業所での暮らし方の希望や思いの把握につなげている。日々の生活の中で出かけたところを聴いて、個別支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人さん・家族さんとお話をさせてもらい、生活歴等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録等を用いて、本人さんの状態がスタッフに周知できるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝礼で一人の利用者さんの話をしている。月に1度は話を行い、1ヵ月の振り返りを行っている。	朝礼で、毎日利用者1人ずつケアカンファレンスを行なって、毎月モニタリング結果をまとめている。家族も交えてケア会議を行ない、次のプランへつなげている。利用者の生きがいや実現したいことを介護計画に取り入れている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過記録や毎月のモニタリングを活用した、介護計画の見直しに繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な自宅に帰るための支援やニーズに応じて、病院への送迎のみの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所後も行きつけの美容室に行く支援の継続。包括支援センター主催のオレンジカフェへの参加。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療とは別に緊急の事由の場合は適宜、往診をしてくださっている。	月に1回、事業所の内科のかかりつけ医の訪問診療を受けており、緊急時にも対応していただいている。利用者個々のかかりつけ医に家族が付き添って受診する方もいる。必要に応じて、歯科医の訪問もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の朝礼で介護職と看護職とで話し合いの場を設けることができている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は毎日の病院への面会の実施。面会時、定期的に担当の先生や看護師さんと情報交換をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人さんの状態の変化に合わせ、家族さんを変えたケア会議の開催。	利用開始時に、事業所のターミナルケアの指針について説明するとともに、同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族の思いを再度確認し、かかりつけ医や看護師と連携しながら対応している。事業所での看取りの事例もある。	ターミナルケアの指針はつくられているが、その概要を契約書か重要事項説明書に明記することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故後の対応は朝礼等で定期的に伝えている。また発生時には看護職を中心に対応をし学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを全職員に配布している。地域の方も交えた年に2度の避難訓練の開催。	災害時の対応マニュアルをコンパクト化し、全職員が常に携帯し非常時に備えている。年2回、避難訓練を実施している。飲料水や食料を3日分備蓄している。災害時の市の受け入れ施設に指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人さんの発しようとする言葉には耳を傾けるよう努めている。 お手洗いや中は職員はトイレから退出するよう努めている。 状態により、これに限らず。	利用者の居室は、利用者の自宅と捉え、入室するときには必ず許可を得てから入るようにしている。居室のカギは、利用者が内側からかけることができる。トイレ誘導するときの声かけに配慮し、トイレを閉めて外で様子を見守るようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現してもらえるようにオープンまたはクローズドクエスチョンを使い分けながらコミュニケーションを図っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせ、食事の時間等の配慮は行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼と夜で着ている服は替えるよう努めている。 また外出時には特に見出しなみには気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗を自宅から持参してもらっている。 食事の盛り付けや食器の片づけなどを職員と一緒に 行ってくれる。	食事は、給食業者から調理済みの主菜が納入され温めて盛り付けし、ごはんのみそ汁は各ユニットの台所で職員が作り提供している。個別に外食支援を行っている。誕生日祝いには、利用者の希望を聞いておやつを作りお祝いしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水量は一定量を摂取してもらえるよう記録をつけている。 記録を取っていない人も体調や状態に合わせて対応をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。 状態に応じて、歯科医師による訪問歯科診療も実施してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの排泄を基本におむつは使わず、尿取りパットの使用を進めている。	トイレの便座の向きがトイレの入口の向きと平行で、とても使いやすい。利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレに座って排泄できるよう支援している。夜間もおむつを使わず、布パンツとパットで過ごしてもらえよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前に野菜ジュースを提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は曜日で固定している。日により入りたくないこともある為、その場合は曜日を変更しての対応を行っている。	浴室の床は、耐水性の畳を使用し、浴槽は檜で豪華な雰囲気がある。週2回、午後の時間帯でゆっくり入浴できるよう支援している。職員と一緒に、スーパー銭湯や温泉に出かけることがある。	利用者の好みによって、入浴回数も週3回以上入ることができるなど、柔軟に対応することができればさらに良いと思われる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で過ごしても良い、フロアのソファで休憩してもらっても良い。その方のタイミングで休んでもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある度に状態の観察を看護職中心に行っている。症状により、主治医との連携も図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字の得意な方に、サロンのメニューを書いてもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人さんの気持ちをケアプランに落とし込み、実施できるよう努めている。時には家族さんにも支援してもらっている。	2階中央に広いデッキがあり、気軽に外気浴を楽しむことができる。天候の良いときは、近所に散歩に出かけている。介護計画の中に、外出目標を定め、個別の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ち込みは基本は行っていない。本人さんへのアセスメントを通して、財布を持っていて落ち着くのであれば、少し持っていたいでいる程度。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先日、年賀状に対する返事のお手紙の支援を行った。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁等には木を使い、床には畳を敷くことで馴染みの空間になるように努めている。	居間や廊下の床は、畳や木が使われており、和風で落ち着いた雰囲気がある。2つのユニットで床や壁の色調を変えている。配置を変えることができる六角テーブルは、利用者の身長に合わせてあり、とても使いやすい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや掘りこたつを用意することで、食事用のイス以外にも自由に座ることのできる場所の確保をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、自宅で作られていた馴染みの家具等を持ち込んでもらっています。	居室には、ベッドの他に洗面台や洋服ダンス、床頭台が設置されている。利用開始時に職員が家庭訪問し、本人や家族と事業所へ持ち込む家具などを相談し、事業所で居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう扉に「厠」を貼ってみたり、洗濯機の使い方をわかるようにポップを貼るなどの工夫に努めている。		